

三五

全十册曲亭主人編

九ノ十

南總里見尖傳第九輯

四十六と巻

三平六下

画工

柳川重信

書物同定抄
板元
酒巻尾紙八巻



特別
14
600
31



曲亭公羽着編

本編一十冊

犬傳 結局編

柳川重信画
漢齋英泉画

大漢堂精刊口

大漢堂精刊口

は年作の
内中れある
大分さ酒
了

公傳第九輯卷之四十六箇端附言
 本編の題目先板巻の四十五その總目録の下小風附生せり。其音官の結局
 其の趣を知らせり。故に併所為の彼六回高し。腹稿の大段を興する
 の。其後本編を編み及いて豫思の。長くあらざる。然るも一巻
 毎小定數ありて作者の自由小做りかた。已て。二回を燈て或は未
 或ハ上中下三回三箇小分ちて其數小合せり。抑二回と燈て三回三箇小做り
 正の唐山の禪史小説の例を。只源は物語の若菜の上ありとも。本傳ハ
 源説小傳も。唐山の禪史小説の例を。只源は物語の若菜の上ありとも。本傳ハ
 其の趣を知らせり。故に併所為の彼六回高し。腹稿の大段を興する
 の。其後本編を編み及いて豫思の。長くあらざる。然るも一巻
 毎小定數ありて作者の自由小做りかた。已て。二回を燈て或は未
 或ハ上中下三回三箇小分ちて其數小合せり。抑二回と燈て三回三箇小做り
 正の唐山の禪史小説の例を。只源は物語の若菜の上ありとも。本傳ハ
 源説小傳も。唐山の禪史小説の例を。只源は物語の若菜の上ありとも。本傳ハ
 其の趣を知らせり。故に併所為の彼六回高し。腹稿の大段を興する
 の。其後本編を編み及いて豫思の。長くあらざる。然るも一巻
 毎小定數ありて作者の自由小做りかた。已て。二回を燈て或は未
 或ハ上中下三回三箇小分ちて其數小合せり。抑二回と燈て三回三箇小做り
 正の唐山の禪史小説の例を。只源は物語の若菜の上ありとも。本傳ハ
 源説小傳も。唐山の禪史小説の例を。只源は物語の若菜の上ありとも。本傳ハ

天保十二年辛酉秋長月吉

養笠漁隱

□ □

目録あり
 十の七
 引ての事
 作ての事
 内へを
 をひて
 をひて
 をひて

南總里見尖傳第九輯卷四十六第百七十七回以下再出總目錄

○卷之四十六 第百七十七回

一顆智王途懲三騎驍將 四個保實反捉兩個保實

同卷 附録目 此段不廢

建柴道場毛野謁守如墓 湯嶋茂林道節破三隊敵

○卷之四十七上 第百七十八回

有種聖麻須歸御黨 大水陸濟度衆鬼

○卷之四十七下 附録目 此段不廢

里見諸將士凱旋稻村城 安房侯博愛賑陸日窮民

○卷之四十八 第百七十九回上

照天歸東房總多福 東西和睦兩國開津

同卷 第百七十九回中 附録目

義成百十二敗將 即友受秘封一匣

○卷之四十九 第百七十九回下 附録目

成孝全孝別故君 孝嗣仗義辭舊主

○卷之五十 第百八十回上 附録目

一燈一僧死生等榮貴 孝感力藝詠歌贊奇異

同卷 第百八十回中

義成童賞功臣妻八女初段

同卷 第百八十回下

光板第九卷之四十一至四十五校閱送漏再訂抄録

其年

光板第九卷之四十一至四十五校閱送漏再訂抄録
 ○四十一の巻 衛序二右 冷山本燕雨雙合傳 本山冷山本燕雨雙合傳 同巻 百七十四の内
 故水死得 同巻 五十四 射朝宿 同巻 百七十四の内
 百八十勝回孤龍 同巻 九十四 里見次麻呂 同巻 百七十四の内
 〇四十二の巻 六丁右 義道 〇四十四の巻 四丁左
 〇四十五の巻 五丁左
 〇四十六の巻 五丁左 長金 〇四十七の巻 五丁左 緑林 〇四十八の巻 五丁左
 〇四十九の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇五十の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇五十一の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇五十二の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇五十三の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇五十四の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇五十五の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇五十六の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇五十七の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇五十八の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇五十九の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇六十の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇六十一の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇六十二の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇六十三の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇六十四の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇六十五の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇六十六の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇六十七の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇六十八の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇六十九の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇七十の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇七十一の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇七十二の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇七十三の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇七十四の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇七十五の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇七十六の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇七十七の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇七十八の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇七十九の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇八十の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇八十一の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇八十二の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇八十三の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇八十四の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇八十五の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇八十六の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇八十七の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇八十八の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇八十九の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇九十の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇九十一の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇九十二の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇九十三の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇九十四の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇九十五の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇九十六の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇九十七の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇九十八の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇九十九の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左
 〇百の巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左 同巻 五丁左

世たり

十のたり

東海 曲 人 編次

一 東海 曲 人 編次

二 東海 曲 人 編次

三 東海 曲 人 編次

四 東海 曲 人 編次

五 東海 曲 人 編次

六 東海 曲 人 編次

七 東海 曲 人 編次

東海 曲 人 編次

東海 曲 人 編次

東海 曲 人 編次

東海 曲 人 編次

大谷 定正 逃く 追せ
 河崎 夫 同河原 赴 遍り 撃破
 橋 橋 五里 兵 見れ
 新六郎 初友 五里 兵 見れ
 諸 諸 諸 諸 諸 諸
 兵法 七書 心 文 運 漢 教 授 授 授 授

いん

橋 橋 橋 橋 橋 橋
 武勇 七 美秀 親 衛 親 衛 親 衛
 秋 秋 秋 秋 秋 秋
 大 大 大 大 大 大
 則 是 犬 士 之 一 人 名 高 大

多捕せんを懸く
 逆風の 船も 那 於 隊 提 快 槍
 四 彼 用 戦 亂 子 難 子 友 友 友
 離 離 離 離 離 離 離 離 離 離 離 離
 矢 視 風 透 道 節 明 相 情 美

近きとも 船をたらし 矢の津へ 敵の往
 舟を 目送りて 舟の中へ 通 節の味をし 大息
 喉を 奮の 河原へ 運 運 運 運 運 運 運 運 運 運 運 運
 舟の 兵 各 助 又 奴 の 勝 あり。 活 路 通 亡
 舟を 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の
 徒 僅 小 二 三 騎 の 矢 口 を 渡 果 々 も の 也



細腹

頭撃之體也 御取存
 唇子 夫大功の細腹を願ふ
 小謙の 尊ととる古語あり 何とぞ思
 只任用也 諭
 諸と 船と異なり 目
 悲と 請ふ 細腹
 細腹

十四

研て 乃乃 我君
 仁義と 善と 軍
 小清主の 物敷る 卑職の 賢達
 意見の 評 仁
 教と 乃乃 他が 自 蘇と 嫌の 乃乃 善

蕉火

蕉火 八日の月ハ後
 果て 踏用ハ蕉火を 修らるる。 振照
 定兵ハ 大石 喜助ハ 儘七 恥
 遊樂ハ 命と 免れ 高僧ハ 暹羅

中本

定兵ハ 佩ハ 西刀ハ 請ハ 身ハ
 又 又 又 又 又 又 又 又 又 又
 曾ハ 新 腕ハ 新 腕ハ 新 腕ハ
 河 河 河 河 河 河 河 河 河 河
 馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬
 上 上 上 上 上 上 上 上 上 上
 深 深 深 深 深 深 深 深 深 深

身子寸鏡を帯るる馬の多終馬の乗
 名は小頭人麿内原景四郎
 送る津七子乗る中程景四郎
 善八一作の島夜と照る火見
 流るる小舟の舟子快船
 五六艘の舟子探甲
 十分舟乗る或は船の推し半は使は浪上自

十七

由る先先枝こ船内
 目重とわき及騎馬一人
 殿より
 定正の
 思ひ馬七騎の見多る
 我の舟の根より
 幸く免れも

事の教に舒し和東の一個の難
昔日ある定止の雨の助友趣楽とい
アラスカ知りるるの氣
ともあるも八丈の海ゆえ
物歎の我
小澤目 宗ら
教成の
大徳の

家の文
と之の教
りる然し
里見
及
道
今
論
者

阿波の... 孫の... 運... 衆...
 ... 備... 遠見...
 ... 初... 那...
 ... 奪... 民...
 ... 若... 衆...

十四

... 時...
 ... 伏...
 ... 運...
 ... 言...
 ... 姑...

浩。如。此。這。浦。遠。る。源。戸。今。日。も。那。水。戦。の。勝。敗。
 を。心。許。り。累。る。や。あ。ん。西。天。立。止。て。澳。の。方。を。剛。直。に。連。
 在。し。と。羊。胸。許。憶。む。磯。松。の。邊。う。れ。立。日。音。が。臥。言。
 を。見。あ。つ。識。り。て。比。日。立。り。と。み。ま。身。ふ。六。十。有。餘。の。老。
 婦。よ。し。金。身。腐。水。に。濡。れ。る。原。來。破。船。の。浮。死。骸。の。
 今。朝。の。這。暴。波。よ。お。揚。ら。れ。る。と。有。る。歎。を。推。流。さ。
 ん。と。左。右。り。その。も。を。食。ひ。て。更。絶。ま。動。脈。猶。あ。る。ふ。
 ぬ。と。身。も。亦。温。る。り。げ。六。原。來。い。ま。死。絶。さ。り。け。ん。疾。嘔。
 吐。を。強。を。合。し。て。嘔。り。胸。を。拵。て。女。抱。子。胸。を。盡。さ。
 程。み。音。立。音。ハ。才。子。息。吐。て。眼。を。睜。り。も。と。動。う。せ。ども。い。ま。こ。
 の。ふ。と。を。得。ざ。れ。徳。戸。け。ら。も。固。い。と。且。舞。且。動。と。

唐心丹

船。七。芒。屋。上。席。の。と。由。坐。地。板。の。邊。子。臥。ま。あ。て。薄。人。們。復。
 こ。を。寒。め。と。て。己。の。グ。宿。所。を。還。り。け。徳。而。家。の。女。房。を。唐。葉。
 程。子。音。立。音。ハ。才。子。息。吐。て。眼。を。睜。り。も。と。動。う。せ。ども。い。ま。こ。
 の。ふ。と。を。得。ざ。れ。徳。戸。け。ら。も。固。い。と。且。舞。且。動。と。
 自。を。親。し。み。淋。淋。有。り。主。人。夫婦。を。向。ひ。て。い。ま。今。再。
 ら。さ。り。け。御。好。意。も。一旦。死。し。る。我。身。あ。る。今。再。
 生。の。歎。ひ。あ。り。こ。よ。る。れ。御。恩。を。侍。り。と。謝。さ。れ。主。人。ハ。
 女。房。と。共。偈。子。含。笑。て。原。來。中。贈。め。され。軟。押。場。の。
 那。里。の。い。ま。と。同。答。て。然。あ。り。と。い。ふ。難。く。さ。う。
 ぞ。の。あ。り。奴。家。ハ。浦。河。を。徳。火。の。母。を。作。り。今。日。

領

ハ安房の洲崎の澳を以て戦あまの舟にて上総へ急果
 あり故に未明に船を出させて備能工と備せぬ猛可
 風波吹暴て流さるるに幾里ありや。這嶺の浦に寄
 ちて時を哀れや。船は西に碎けて。船主我身は浪波の
 危ともや。いと瀕りし。我身に糸見。女良の誓ひも。か
 かりし時。千奴の海の底に布りて。貝採技を生活のせ
 甲斐の波を元自。命を涯りし。暴波を。浪波
 洄るるに。幾所ありや。林道浦に。四尺着て。磯を臺と思
 しの。井儘息を。沈みけ。其後の。身を。知らず。死に。絶
 死言うち。文て。はるる。ところ。所。主人。夫婦。は。然も。こと。あ
 らぬ。ところ。ち。鎮く。の。疑ひ。言。誠。齊。一。答。や。り。死。小。あ

たし

くりし。將。營。を。あ。ま。の。其。船。破。れ。身。入。水。と。暴。死。今。日
 の。風。波。を。浪。に。四。く。本。を。ゆ。て。毫。も。潮。水。を。吞。ま。れ。こ。も。注
 生。て。意。も。な。げ。れ。徳。小。徳。那。隨。よ。遠。嶺。で。今。流。る。地。方。の。元
 會。言。へ。ば。小。徳。の。り。出。た。死。る。の。る。今。日。の。將。谷。の
 營。領。様。の。安。房。の。星。見。を。攻。伐。か。水。戰。あ。る。故。に。這。嶺。の。船
 さ。成。敗。れ。し。六。流。獨。枝。の。便。着。る。替。屏。居。く。在。る。あ。る。
 終。を。備。へ。小。徳。り。る。那。累。嶺。の。仙。れ。を。見。出。し。た。ら。ら
 も。措。け。ば。血。隣。人。の。も。を。惜。り。て。我。屋。小。船。を。早。め。く
 寒。空。看。る。病。も。更。一。河。の。流。を。返。も。一。樹。の。蔭。小。富。小。似。り
 响。る。言。上。茂。林。あ。て。は。居。家。海。苔。七。と。嘆。か。る。う。た



九九



戦軍の我々が老母を恨むといふはやと推辭しを音音の
冷笑を。あつが糸を遺りぬぬ家へ選ん然らむ。と
い捨て互をうらむ。まらむ。大家ややと喚停て形を懸
慮し。領行を三度せよと乞ふ。味ら難。音音猶も去
せし。船の纏會て。江渚の松小流ひ留れ。残無言
初揺る。と。船より中。立つ程。音音先。西三箇の索を
もす。解捨れ。解れ。老無。子。修。甲を解け。甲
赤解れ。解れ。各各。西。月。中。あり。ふけり。登時。又
老無。解れ。い。約束。る。遠。過。を。伴。る。其。あ。る。ん
然れ。も。遠。儘。ま。し。く。儀。そ。ゆ。入。る。正。許。さ。る。べ。し。船。ま
戦笠。眩。猶。脛。衣。あり。那。も。と。男。装。ま。せ。て。黄。昏。時。に

うち紡らせ。俱。夫。城。か。る。あ。く。有。名。む。る。る。る。る。る。
と。い。を。大。家。話。を。て。船。を。音。音。小。舟。甲。を。ま。し。且。戦
差。を。載。せ。の。後。身。の。前。身。通。御。々。を。武。有。態
る。我。物。を。い。つ。ま。我。們。と。木。口。岩。城。を。敵。捕。れ。し
腰。軍。記。を。筆。河。の。せ。ん。口。笠。講。と。戦。備。と。照。驗。小。ま。を
危。告。を。せ。が。心。城。門。を。用。れ。い。ま。ぐ。く。と。散。斬。り。な。し。
音。音。を。後。方。小。立。せ。り。あ。ま。を。投。げ。走。り。け。り。
有。信。程。太。波。毛。野。智。洲。河。の。原。の。木。戦。小。舟。舟
大。文。と。船。方。全。勝。あり。舟。が。獲。る。舟。の。城。を。獲。て
真。目。軍。常。名。を。極。ひ。合。ふ。と。逸。早。く。其。隊。の
頭。人。少。木。但。一。部。を。京。千。代。の。圖。書。々。豊。復。浦。安

言をきき 富城を領し守る筈由取蘭三圓通等孰も駭
ざんいも敵の旗をい不見て落支夜をると者あり
取蘭三圓通等孰も駭の類人ひと共侶の中を隊配を
做し程に城申猛可放火の聲あり守屋より耳大振りて
益々城樓小旗程に相喜小敵兵あり其兵火を
りて胡歩乱行に城兵を中る小儘を研作し口末鋭く聲
高や小若れ続々星見の軍師大坂を野り先鋒の類人
言字千代丸豊俊あふ在りまよふ在り敵首被り相嘆りて
四下を靡れと大い風の暗さる馬ら城兵等ハ敵の里かを知
され右往左往迷走を敷る者も目ありけり富下目見
士卒們夙く正門をうち開けの宮座の邊より小旗系れる馬

二十四 乙未 二月 丁卯

二十五年め。は初め近頃一羽千をうりて又

の絆を斬新の馬三三願牽出て高宗豊俊小旗を
馬相く小旗れて正門の橋を暮道小旗して遠く馳去り城兵
度を考て懸れ暮りて正門の進出者目りて這隊進
敗れけり。此れ大坂を野り智の満安友勝木若木と
共侶の三千有餘の隊をいね那旗兵の迹を跟りて
城の近き程に城兵猛可小恩劇に急書りて宛ける兵
大と傾城のりより放馬三三願這方を投て馳去るを野
に先鋒の士卒に下知て馬を投馳させを編て其
身と友勝季をえの騎馬の諸兵を勸めて旗兵季小
推寄て城の正門の裏合れに進見利金と隊の兵と海に
由る。の海門の裏合れに敵を拒けり是れは先鋒の

姫いゆもゆきしうらみおのあまのいゆせんとあふ先術をいふ
うらみと在りて城の兵大係りぬとせえし左と右とを免れ
か免命を今ゆり惜んや只この儘に及ぶ伏て死すの道狭小相
伴んともふく縁り合はれ念ひ唱る西聲の細きありの
熟れをあら。便小舟を放ちて既小舟と見えええしゆり有信
裡の妙算申すも早急算の量小遠城の保算小捕合
られて奥在る一室小舟の身の意多う小舟と加ゆる音
音の上をいふと思ひのこ然と人の同難て做し事あり
早暮と裡の日黄昏時及びて城中猛可小噪れ起て
星見の軍師と通寄して正門小破れり加と四馬の聲の
ゆえ。此遠保算申すも守の頭人大石憲重の家臣あり。

那の時枝を而天岳降九帝管はる難色収録成進きけ
高嶺の在るをあらぬ妙算申すも早急算の量小遠城の保算小捕合
丁の御が思ひ願を集りて。安危を計るも早急算の量小遠城の保算小捕合
寄しを城と攻落しとあんとすも。終大我身の出入り
遠きとありしゆめといふ妙算申すも早急算の量小遠城の保算小捕合
遠城の河堀屋と鳴れぬ。定正まのゆき君もをり。及朝
軍まの夫人の貌。始難も左と右とを免れ。遠兵乱し。那三柱の老史
人新夫人の意あり。我西館の南仁心小遣りす。後をのり
不方切是。非如察月を和む。情地小後堂小難れ。那方得
不便。ゆりせし。大坂まの渡。我門が賢小推られて。遠軍



四十一



又物見申す
禪師の上も
心許る。

城の土車小備之乱と云々と
違ふを遠く相合先鋒の頭人高僧の
浦安友勝木を奉元土車を薦めて三十一の
乱の然も勢死大刀風小城兵防ふ力あり
取南二を肩小桂の後門投て吐と擬れ七
軍布前川渡心ありしり非充る船方の土車
後門よりを落しける信而友夜を野風智一
攻落し七馬を本城小乗入る敵一人あり
あふ此七高僧豊後を召てのり我軍當城
主の後母河場殿の朝宮平の夫人貌姑姑あり
処を索ぬて直く勤り慰む但那五婦女の

四十二

什原

や都て罪ましむるを一所の集會と
坐空藏と倉庫の我も自封と和殿
扇七土車の乱妨と放言のと急をが高僧
相心の能て土車を部七城の隈あり
餘の土車の屋上の旗を燒て二三の城門を
徳而を初更の左側の小森但一郡高僧其隊の土車
と俱に音音物真を將て來る者也を風智の報はけ
野の先は必ず負はるを自ら負ひては單に第一善を死す
音の媼の艦を送られては道見の在りと思ひ小釘
身白の故とわる身息磨をと回らぬ負先答ふの小
初の程の又枝を部餘の東に罪を掛想はる

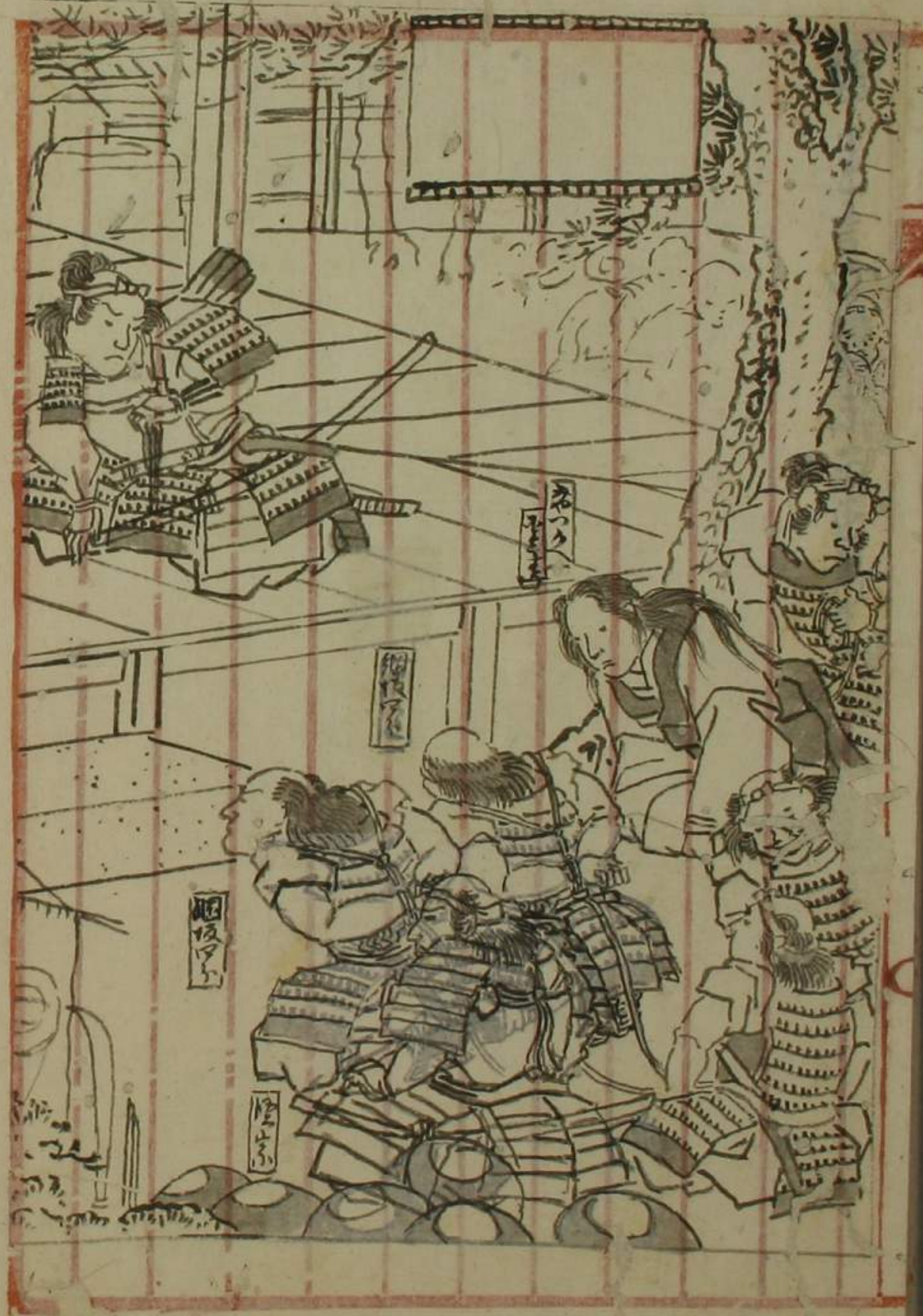
うめを

を告げ。又
りぞ折る

御向小河丸殿 親如姫の自報に先とあるに時常にも
参り合せし其死を替りたり 折を断れりあるに
至家の乱をとり利の剣申も軍常を推し退りされ
大鏡もて權をとり 遍り 櫻の料も音音のり自の
朝助のりて万人首を斬る果 あり 俱小伴の両柱の
御達と御り意宗 七国の末幸 小退り七候りと十五子
進給とれ音音宗大茂林の奥邊を仁田山晋六が榮
新能を計り七候七世 事の始り 那身が海に渡りたを
免れぬに死にたる茂林濱小退り 折海を七夫婦の死と候
事の際 角谷の兵の威結たれ七還り奉る具
艦流れ寄り 他們を漫小味誘くと 這城の 紡糸小

はに

親身小勇力士達の推續れと當城小攻ありを知らんと
月と申し軍常をいふと 救ひも 男の故の事 給り
後堂深く潜みたり 今妙果の自の言あり 如 伴の両個の
死人を肩夾み小被け替除れ 阿城殿と親如姫を奉事
小俱の共侶小事の鎮りを俵俵りたと 報るを在野の列と
亦興て成と七世と 情も 身を指鳴り 七田止るも勇偏の
進退孰れも忠実をまじ 故 況七名皆妙子 阿城殿と親如姫の
情を自後あるあり 我西館の沖仁意の徒事とあると
長く怨を結れ小那死を極めあり 時の丁七其初孫
華賣とあり 我も見免まされ 小夜方の憚りあり
先後堂小攻り 七七自告 宿直 進を備取事の死年の



五ノ

三ノ

保賢小提れ... 不用意... 我兵僅小... 細飯四郎... 小宗如入當城... 索被せと將と來... 我兵僅小... 細飯四郎... 小宗如入當城... 索被せと將と來... 我兵僅小... 細飯四郎... 小宗如入當城... 索被せと將と來...

雜兵の

半才あせし... 在りて見生... 不ぬと... 我兵僅小... 細飯四郎... 小宗如入當城... 索被せと將と來... 我兵僅小... 細飯四郎... 小宗如入當城... 索被せと將と來...

吉道もあ、宣示せよ、友勝、竹真、音、小、付、中、女、房、等、を、受、命、
て、老、兵、許、り、從、へ、り、し、て、後、當、夫、用、以、其、後、又、細、飯、山、
唐、人、們、を、開、く、儘、に、敵、の、兵、毎、小、率、立、ま、せ、り、外、而、投、て、違、ひ、
徳、而、當、時、子、二、身、の、左、側、小、率、目、取、宗、小、後、岡、後、小、能、内、葉、
部、と、側、小、を、野、に、違、違、不、從、ひ、て、既、小、去、向、を、給、り、生、口、大、石、
軍、備、を、隊、の、者、毎、小、率、せ、り、お、の、城、中、亦、小、の、毛、野、側、
城、の、正、廳、の、者、の、内、入、り、と、對、面、し、奉、時、取、宗、小、御、南、小、河、崎、夫、
中、の、河、原、め、定、正、主、僕、僅、小、二、騎、道、筋、の、虎、口、を、通、れ、
那、里、小、津、り、を、討、ら、せ、り、折、目、伏、兵、一、度、奉、給、て、女、場、僅、小、と、
く、し、の、定、正、主、僕、悲、し、請、を、言、果、々、と、あ、ま、れ、則、主、僕、の、願、
ひ、小、任、せ、り、定、正、の、目、筋、を、首、級、小、擧、る、獲、鬘、を、受、命、

命、を、免、り、且、事、の、順、の、為、小、軍、備、を、領、有、り、及、小、兵、中、能、内、葉、
巨、田、助、左、が、伏、龍、が、集、り、河、を、奉、給、違、ひ、則、助、左、と、
任、し、那、里、正、と、那、里、海、邊、與、七、河、崎、の、り、奉、給、堅、宗、と、
一、隊、の、り、奉、給、事、の、趣、を、源、迹、と、又、堅、宗、小、謀、見、を、て、風、を、
引、給、違、ひ、二、隊、を、も、定、正、を、奉、給、し、折、巨、田、新、部、助、左、僅、小、
五、百、の、隊、兵、を、も、道、筋、を、防、犯、戰、事、の、先、景、を、や、り、隨、小、吉、
あ、の、當、下、毛、野、儀、然、と、軍、備、の、り、白、ひ、て、や、れ、大、石、生、和、藤、親、
子、小、官、領、左、の、元、老、か、其、君、を、輔、け、り、賢、良、を、奉、給、
事、を、委、せ、り、友、と、那、里、小、津、り、を、奉、給、非、理、の、大、兵、を、起、し、
罪、を、降、降、國、を、由、吉、と、奉、給、の、故、に、萬、難、あ、り、と、い、ふ、

木曾生も意を以て俱小坂へ推寄り當城の敵の
難攻難取なる冷敷地を以て腰戦敵を送るべきと
急せり高宗李元故服と當晩一千の士卒を將て情天の城を
占め大坂へといさむなり今同大坂を率ひ今月の勝軍の事の
趣を例崎の赤陣吉重と右軍を召して既小坂小坂及
おれ進歩を果し果て敵軍を驚かすも左右に控小
天の明正門を衛る士卒等が案内を率ひ大法師の谷山
も御座りおひもゆえおれ野のさかへ立迎へ上坐小推升
目那奇風の大功を捕獲するを大坂の敵軍は驚かす
して小坂小坂を宿見しとあり軍師昨日の勝軍は是賀を
似え我三木の出家の功德の竟小薩摩の意趣小依りぬ柳

昨日の女兵の焼れ死す者幾千百ありゆい歎惜むむはとあり
おれおれしり新王を以て國を起せ我罪重なりとありと死
るをも野の所へ慰め師の自説の終るとあり是事小論
重なりとあり書を徴する佛の方便時宜しとあり殺生も反て佛意小
叛き細師の大加仰ふとあり今快能をもと御座り使をまあり
尤も御座り先齋をまあるはの連音山執事の
病弱を憂へおれおれと解れと大坂の敵軍の法衣
様浄衣の枯澁を脱更しとあり丸線も敵軍のかけり作らあり
りは信而主客の早鑑早も野の鏡内業四部を身邊近
るをも以て大師の御五七個の御座り御座り御座り
御座り去向の水路を收帳するに却言上の趣小御座り

天保十二年

口三丁同軍辛丑秋九月廿三日移

著有化堂只授稿

筆福硯壽

大善利市